



## (公社) 応用物理学会 有機ナノ界面制御素子研究会討論会

### 環境科学とエネルギーを考える

### ー有機エレクトロニクス研究の目指すものー

- 日時： 平成 31 年 2 月 22 日 (金) 10:00~18:00 (予定)  
■場所： 九州工業大学大学院生命体工学研究科 (若松キャンパス)・端末室  
(〒808-0196 福岡県北九州市若松区ひびきの 2-4)

- 開催趣旨： 21 世紀に入り、ライフサイエンスやバイオでは、生体機能を電子工学的に研究するバイオエレクトロニクス、さらには生物の持つさまざまな働きを上手に利用し、我々人間の生活や環境保全に役立たせようという技術としてバイオテクノロジーが注目されています。すなわち、生体分子を使って、生体を模範にした新規な機能素子を作り、さらに生体系の設計や構築に対する考えた手順を利用し、素子と合わせてシステム全体を構成する技術が極めて重要です。言うまでもなく、現代社会が目指す低炭素社会の実現には、“安全確保”を優先する「経済成長」、「エネルギー安定供給」、「環境保全」の調和を図ることが不可欠です。

有機ナノ界面制御素子研究会では、上述のような観点から「環境科学」を念頭においた有機エレクトロニクス研究の重要性について基礎的事項から最新の応用研究例を紹介する討論会を企画しました。福岡県北九州市は、環境国際協力や循環型社会づくりを行っており「世界の環境首都」を目指したまちづくりを推進しています。このような背景から、提案の討論会を北九州市で開催することとしました。

特に、学生、若手研究者が自由に意見交換できるように配慮し、研究交流の契機といたします。また、討論会を通して“生物学は何を教えてくれるか？”の理解を深めるだけでなく、本研究会の活動についても紹介いたします。

- 参加費： 一般 3,000 円、 学生 無料  
■予稿集代： 1,000 円 (一般参加費には 1 冊含む)

- 主催： 応用物理学会 有機ナノ界面制御素子研究会  
■協賛： 電気学会 先進ナノ材料・構造制御と革新的有機デバイス開発・ライフサイエンス応用

#### 調査専門委員会

- 世話人： 小野田 光宜 (兵庫県立大), PANDEY Shyam sudhir (九州工業大),  
金藤 敬一 (大阪工業大), 馬場 暁 (新潟大)  
■参加申込先： 馬場 (新潟大, ababa@eng.niigata-u.ac.jp) まで直接メールでお申込み下さい。